

最高で、 2度と来ないでほしい夏。

世界がコロナ禍に覆われた2020年。

部活動を制限された中高生たちが挑んだのは、オンラインを駆使して日本各地で同時に天体観測を行う競技「スターキャッチコンテスト」。

茨城、東京、長崎・五島の学生が始めたこの活動はやがて全国に広がって――。

©2025「この夏の星を見る」製作委員会

2021-22年にかけて新聞に連載された辻村深月の小説『この夏の星を見る』（角川文庫/KADOKAWA刊）。『ハケンアニメ!』『傲慢と善良』など映画化作品も多く、老若男女の読者を魅了し続ける著者の長編が、新たに実写映画となって届いた。監督の山元環と脚本の森野マッシュは、共にこれが劇場長編デビュー作となる。キャスト陣も次世代を担うフロントランナーの若いチームが集結。未曾有の事態に直面した少年少女の哀しさやもどかしさ、そして、彼らが触れる人々の優しさと温かさを瑞々しく描き出す。

茨城県の天文部で活動する高校生の亜紗を演じたのは桜田ひより。『交換ウソ日記』（23）『バジャーノイズ』（24）『大きな玉ねぎの下で』（25）などのヒロインを担ってきた圧倒的な青春を感じさせるたたずまいで、先の見えないコロナ禍での不安や悩みを抱えつつ、天体に魅せられた喜びを支えに走り出す姿を息づかせた。亜紗の同級生で天文部員として歩みを共にする凛久には、「MEN'S NON-NO」の専属モデルでもある水沢林太郎。大河ドラマ「べらぼう〜蔦重栄華乃夢斬〜」（NHK）やドラマ「なんで私が神説教」（NTV）に出演する中、映画『おいしく泣くとき』（25）も公開された注目株が、思春期の多感な心の揺れと向き合う。また、東京の中学に通う孤独な新入生・真宙には『怪物』（23）『国宝』（25）の黒川想矢、長崎・五島列島で高校最後の夏を過ごす円華には『PERFECT DAYS』（23）の中野有紗、その親友の小春に『違国日記』（24）『か「く」「し」「こ」「と」「』（25）の早瀬憩、真宙を理科部に誘う天音には『ゴールド・ボーイ』（24）の星乃あんなが顔を揃える。さらに天文部の顧問である綿引先生を「キャスター」（TBS）の岡部たかしが演じ、カメラの内外で若い出演者たちを見守った。監督は大阪芸術大学の卒業制作『ゴロン、ボタン、キュー』

（15）で早くから注目を集め、ショート動画ドラマで総再生回数4億超えという記録を叩き出した山元環。劇場長編映画デビューとなる本作では、新規メディアを乗りこなす感性和実制作の現場で積んできたキャリアを注ぎ込み、28歳で「VRおじさんの初恋」（NHK）に抜擢された気鋭の脚本家・森野マッシュとのタッグで、10代の登場人物たちが織りなす青春の輝きをスクリーンいっぱいに投影してみせた。また、『ルックバック』（24）のharuka nakamuraが、音楽と主題歌を担当し、ヨルシカのボーカルメンバーであるsuisが主題歌を歌唱している。

みんなコロナのせいだった。でもコロナじゃなければ会うこともなかった。「この一年にも意味はあったって、特別だったって、信じられる」。だから空を見上げる。心の動きを見逃さず、捕まえて、離さないで。この夏、最高に熱い奇跡が起こる！

かわいそうな世代かどうかは、 私たちが決めること。

2020年、コロナ禍で青春を奪われた高校生たち。茨城の亜紗は、失われた夏を取り戻すため〈スターキャッチコンテスト〉開催を決意する。東京では孤独な中学生・真宙が、同級生の天音に巻き込まれその大会に関わることに。長崎・五島では実家の観光業に苦悩する円華が、新たな出会いを通じて空を見上げる。手作り望遠鏡で星を探す全国の学生たちが、オンライン上で画面越しに繋がり、夜空に交差した彼らの思いは、奇跡の光景をキャッチする――。

この夏の星を見る

*Catching The Stars
of This Summer*

7/4 FRI

桜田ひより

水沢林太郎 黒川想矢 中野有紗 早瀬憩 星乃あんな 和田庵 萩原遼 秋谷都南 増井潮々 安達木乃 蒼井旬 松井彩雲（子役） 中原果南 工藤遥 小林涼子
上川周作 河村花 朝倉あき 清水ミチコ ビスケットティ佐竹 堀田茜 近藤芳正

岡部たかし

原作：辻村深月『この夏の星を見る』（角川文庫/KADOKAWA刊） 監督：山元環 脚本：森野マッシュ
音楽：haruka nakamura 主題歌「灯星」haruka nakamura + suis from ヨルシカ（Polydor Records）

FLARE CREATORS 企画 第一弾作品

総合プロデューサー：松井俊之 プロデューサー：島田薫 音楽プロデューサー：津島玄一 音楽スーパーバイザー：森田太 撮影：菅祐輔 照明：渡邊大和 録音：井村優佑
編集：瀧田隆一 監査：熊谷夏帆 VFX Supervisor：佐伯真哉 VFX Producer：池田 勇輔 カラリスト：芳賀純 スクリプター：万洲田千尋 美術：小林蘭
DIOコーディネーター：島健太郎 DIOプロデューサー：泉野都 音楽制作：山口優子 天文監修：岡村典夫 アストロフォトグラフィ/VFX Director：天文監修：竹本宗一郎
宣伝クリエイティブプロデューサー：福岡昌夫 宣伝プロモーションプロデューサー：三原知之 宣伝企画ディレクター：原健介 宣伝企画：山中雄介
宣伝アートディレクター：榎本卓朗 宣伝コピー：中村直史 宣伝デザイン：佐藤和美 協力：長崎県五島市 ロケーション協力：茨城県立土浦第三高等学校
企画協力：KADOKAWA 制作プロダクション：東映テレビ・プロダクション 配給：東映 企画：FLARE CREATORS ©2025「この夏の星を見る」製作委員会

五島市
鬼岳天文台



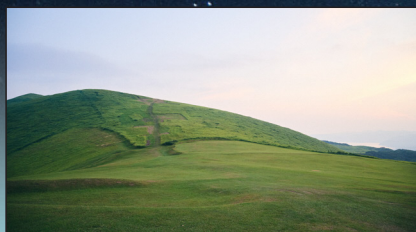
映画「この夏の星を見る」× 長崎県五島市 撮影ロケ地マップ

大小63の島々が織りなす美しい海や絶景、そして、輝く星空。

映画『この夏の星を見る』の撮影ロケーションになった

五島のスポット巡りをお楽しみください。

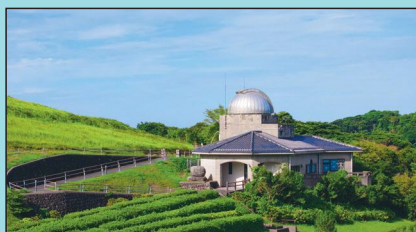
本作の舞台 長崎県五島市の
魅力を特集ページで紹介！



①鬼岳

登っても、眺めても、そして、見上げて楽しい福江島のシンボル。鬼岳は2023年5月に「未来に残したい草原の里100選」へ選定されました。是非、鬼岳でリアルなスターキャッチコンテストをお楽しみください。

〒853-0013 長崎県五島市上大津町



②鬼岳天文台

鬼岳天文台は、五島列島を訪れる人に美しい宇宙を見てほしいという思いからオープンしました。今にもこぼれ落ちそうな天の川が肉眼でもはっきり見え、その美しさに心が震えます。泉水高の生徒たちが参加した天体観測ツアーは必見です。

〒853-0013 長崎県五島市上大津町 2873-1



③福江港

五島市の玄関口でもある福江港ターミナル。長崎・博多・奈留島・久賀島・上五島の他、杣島・赤島・黄島と海路で結ばれています。映画のラストシーンは、この場所で撮影されました。

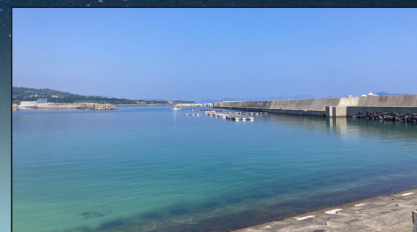
〒853-0015 長崎県五島市東浜町 2-3-1



④五島海陽高校前の坂道

円華と小春が毎朝仲良く通った坂道。

〒853-0013 長崎県五島市上大津町



⑤崎山漁港海浜公園

崎山漁港海浜公園は、夏には海水浴が楽しめる、家族や友人とゆったり過ごせる憩いの場です。福江港から車で約15分の距離にあり、無料駐車場も完備されています。武藤の様に、ランニングコースにもおすすめです。

〒853-0022 長崎県五島市向町



⑥ハーミットクラブ(民宿)

青い海と緑豊かな山々に囲まれた施設で、釣りやレジャーを楽しみながら、至福の時間をお過ごしいただけます。円華の実家「つばき旅館」のロケ地になります。

〒853-0504 長崎県五島市玉之浦町丹奈 47



⑧高崎ビーチ

白い砂浜に息をのむ程のエメラルドグリーンの海。近づくにつれて道路沿いから見える景色は、日常を忘れさせてくれます。夏の防波堤では、次から次に学生達が飛び込む姿が見られ、円華や小春たちのあのシーンに遭遇できるかも。

〒853-0612 長崎県五島市三井楽町嶺高崎 581-1



⑦五島南高校

泉水高校のモデル校になった、豊かな自然に囲まれた学校。

※学校施設のため、ロケ地巡りの際は学校関係者へ事前にご連絡ください。

〒853-0702 長崎県五島市岐宿町川原 3487

